図書館通信 6・7月号　宇東図書委員会

暑くなり、少しずつセミの鳴き声も聞こえ始めました。本格的に夏が始まりますね。ということで今月号は、**今年の課題図書3冊と中田敬子先生（地歴公民科）から寄贈していただいた本**を紹介します。夏休みにぜひどうぞ。

『水を縫う』　寺地　はるな　著

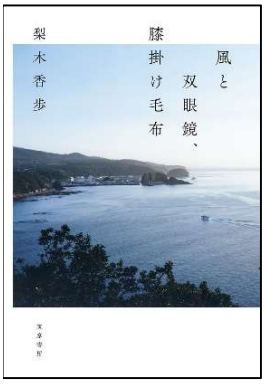
松岡清澄は高校１年生。１歳の頃に母と父は離婚し、今は祖母と、市役所に勤めている母と、結婚を控えている姉の水青との四人暮らしをしています。この本は「みなも」・「傘の下で」・「愛の泉」・「プールサイドの犬」・「静かな湖畔の」・「流れる水は淀まない」の全 6 章で構成されています。世の中の〈普通〉を踏み越えていく、清々しい家族小説です。とてもおもしろい本なのでぜひ読んでください。

『兄の名は、ジェシカ』　ジョン・ボイン　著

サムの自慢の兄であるジェイソン。彼は家でも学校でもみんなの人気者。しかし、ジェイソンはトランスジェンダーだった。遂に家族に、自分が男であることの苦痛を告白すると、両親は自分たちの社会的立場からうろたえる。そして母が時期首相候補となったとき、マスコミがジェイソンの問題について注目するようになり……。

『科学者になりたい君へ』　佐藤　勝彦　著

科学の原点とは何だろう。宇宙の果て、生命の謎、コンピュータ……。サイエンスに関心を抱き、研究職を目指す君へ。日本の科学研究を牽引した著者がその扉を開く。どうすれば科学者になれるのか？　「科学」を見る目がガラッと変わる。理系分野の話ですが、とても分かりやすく書かれているので、サイエンスに興味のある人も、ない人も、すべての人にオススメの一冊です。

『風と双眼鏡、膝掛け毛布』　梨木　香歩　著

今年本校に赴任された中田敬子先生から、図書館に寄贈していただいた本です。著者は地名を手掛かりにその土地の記憶を紐（ひも）解く旅に出ます。何故（なぜ）その名前になったのか。語り継がれてきたそのわけと、目の前に広がる景色の答えを探すその旅にきっとあなたは引き込まれていくことでしょう。
ここでしか読めない魅力的な日本の地名が大集合です！　不思議に思っていたあの地名に実は、こんな成り立ちがあった！